

## 令和3年度 秋桜高等学校 学校評価

### I 中期的目標

- 1 生徒一人ひとりとしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する。
  - (1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。
  - (2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。
- 2 基本的な生活習慣の確立を図り、学校生活が心地よく過ごせるよう、全教職員で取り組む。
  - (1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。
  - (2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。
  - (3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。
  - (4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。
  - (5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。
  - (6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。
  - (7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。
- 3 教職員間の情報交換がしっかりできるよう工夫し、生徒一人ひとりを大切に教育に全教職員で取り組む。
  - (1) 生徒一人ひとりを大切に教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。
  - (2) 職員会議等の機会のみならず、日常における情報交換を行い、相談できる機会を持つ。
  - (3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [令和4年4月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 別紙「生徒に対するアンケート」参照。</p> <p>○保護者 別紙「保護者に対するアンケート」参照。</p> <p>○教職員 別紙「本校教職員に対するアンケート」参照。</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や各種行事等を含む日常の生徒との交流・指導および保護者との懇談等をもとに、教職員は目標を理解しつつ活動している。</li> <li>・定期的、臨時的な会議および日常的な意見交換の場において確認された教職員の認識によれば、重点目標について各教職員の理解と協力が得られたと思われる。</li> <li>・前年度に引き続き上記のような取り組みを実行し、その結果は当年度においても全般的に目標に沿った効果を見ることができたと考えられる。</li> <li>・コロナ禍が始まってからの「特別活動」のあり方については、毎年その時期の感染状況を予想しなければならず、難しい。しかしながら、どのような内容の活動なら実施できるのかという議論を数年重ねてきていることにより、判断基準等が整理されてきている。例えば、春の「ハイキング」や9月の「キャンプ」については、実施場所を学校の近くに設定することにより、活動できた。また、教職員だけでなく子どもたちの意見も聞き取りながら、コロナ禍の中でのキャンプを模索できた。一方で、秋の「芋掘り&amp;みかん狩り」と12月の「アイススケート」は、予定通り実施。しかしながら、「スノーボード研修」は宿泊を伴いなおかつ遠方ということもあり、今年度も実施を見送った。代替の活動として、近隣の体育館を借りて「体育館レクリエーション」を実施した。昨年度は学校内での「ゲーム大会」であったが、近くても学校以外の場所で過ごす活動となったことは、少し前進したと考えられる。</li> </ul>	<p>学校評価委員会実施日：令和4年6月3日（構成委員6名）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自己評価の結果内容が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</li> <li>2 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</li> <li>3 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</li> <li>4 学校運営の改善に向けた実際の実践が取組が適切かどうか 適切である（6）人・適切でない（0）人・わからない（0）人</li> </ol> <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の感染症対策として、必要な知識を伝える努力も必要だが、そもそも新型コロナウイルスと共にどう生きていくのかということ、人類の歴史を踏まえ考えていく機会も、授業やさまざまな時間の中で持てるといい。</li> <li>・感染症対策を徹底した上ではあるが、子どもたちが学校生活に馴染んだり友達をつくる大事な機会である特別活動は、できる限り実施してほしい。</li> <li>・子どもたちの学力や到達点が幅広いと思うので、レポートもできるだけ幅広く対応できるような内容にしてほしい。</li> </ul>

2 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒一人ひとりとしてしっかり話し合い、各人の目標に応じた学習計画に従って指導する	(1) 各人の目標に応じた学習計画に基づいて指導するために、各生徒に自らの興味や関心について意識させ、それぞれの目標を見定める機会を持つ。  (2) 目標に応じた学習計画を立てるための助言を行い、学習の動機付けや指導の指針とする。	・継続課題として前年度より「学校づくり、学習・教科指導の充実についての保護者の認識」については、引き続き取り組む。	(1) ・自己評価(教職員)① 「本校の教育理念および方針に基づいて校務に取り組んでいる」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)② 「時間割や開講科目等、教育カリキュラムを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)④ 「生徒が興味を持って参加できる授業になるように工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・自己評価(教職員)⑤ 「生徒の意欲を引き出す取り組みやすいレポートとなるように工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・学校評価(生徒)① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が89.1%(前年度実績92.7%)。 ・学校評価(生徒)③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が89.8%(前年度実績93.4%)。 ・学校評価(生徒)④ 「レポートは、取り組みやすいように工夫されている」の肯定的評価が88.4%(前年度実績90.6%)。 ・学校評価(保護者)② 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が80.4%(前年度実績80.6%)。 ・学校評価(保護者)③ 「レポートは、取り組みやすく生徒の意欲を引き出すよう工夫されている」の肯定的評価が87.8%(前年度実績83.3%)。  (2) ・自己評価(教職員)③ 「生徒の状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。 ・学校評価(生徒)② 「先生たちは、一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が93.2%(前年度実績94.1%)。 ・学校評価(保護者)① 「教員は、生徒一人ひとりの状況に応じて学習のサポートをしている」の肯定的評価が91.9%(前年度実績89.9%)。	前年度のアンケート結果と比較して、どの項目も大きな数値の変動はなく、今年度も概ね肯定的評価をいただいていると判断でき、学校運営、教育活動に対し理解を得ていると評価する。 学校評価(生徒)① 「授業に無理なく出席できるよう、時間割が工夫されている」の肯定的評価が3.6%減少していることについて、考えられることは2点ある。まず、1点目はコロナ禍の中で生活リズムを崩している生徒が多く、1限目や2限目等の授業に出席しにくくなっているということ。2点目は、密を避けるために1日当たりの登校者数を制限する時間割にしたことにより、生徒は煩雑さを感じたかもしれないということがあげられる。 学校評価(生徒)③ 「授業は、興味を持って参加しやすいように工夫されている」の肯定的評価が3.6%減少していることについては、生徒が特に楽しみにしている実技体育(レクリエーション体育)や調理実習が、コロナの影響で例年通りの実施方法では難しいこともあり、期待通りの内容にならなかったことが考えられる。 一方で、学校評価(保護者)①②③は前年度に比べ肯定的評価が増加している。コロナ禍の中での授業やレポートへの工夫、生徒に対する学習のサポートに対して、保護者から一定の理解を得ていると捉えられる。それは、担任が生徒の学校での様子等を意識して伝えていることによるものだと考えられる。

(1) 各行事における生徒と教職員、生徒同士の交流が貴重な機会という意識を持って臨む。

(2) 基本的な生活習慣の確立を図るにあたって、計画的なレポート作成や授業受講および特別活動への参加等についての相談に応じる。

(3) 特別活動などを通じて人間関係形成の機会とし、家庭を含む生活習慣に関しても助言する。

(4) 学校生活が心地よく過ごせるような配慮として、交流に際しては、各生徒が心を開きやすく楽しい会話ができるような雰囲気を重視する。

(5) 校舎や教室の美化に務め、落ち着いた学習環境と交流の場を提供することに留意する。

(6) 生徒一人ひとりとしっかり話し合うために、生徒との面談や保護者を交えた懇談および授業を含む日常の学校生活の中での交流を行う。

(7) いじめや暴力のない学校づくり、学習指導・教科指導の内容を、保護者懇談等で説明する。

- ・継続課題として前年度より「宿泊研修等の特別活動への有意義な参加についての生徒の認識」については、引き続き取り組む。
- ・特別活動については、活動内容の企画・立案や生徒参加の留意点等について、慣例的・固定的なものにこだわることなく、充実したものとなるよう努める。
- ・何よりも「楽しい学校」であるべく工夫し、各生徒が自らも他からも肯定されることから始めることによって、自信と将来への希望を育むことに心がける。
- ・教育方針や生徒指導等に関しては、懇談の機会を重視しながら、教育内容に関する各種通信文書、「いじめ防止基本方針」のHP掲載等を活用しつつ保護者への周知を進める。

(1)

- ・自己評価(教職員)⑥ 「生徒が楽しくいきいきと参加できる学校行事となるよう考えている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が84.9%(前年度実績87.6%)。
- ・学校評価(保護者)④ 「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価が92.5%(前年度実績88.0%)。

(2)

- ・自己評価(教職員)⑦ 「どの学校行事にも生徒が参加しやすいよう丁寧に働きかけている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(3)

- ・自己評価(教職員)⑧ 「生徒の基本的な生活習慣の確立につながるよう学校生活や行事の中で支援している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(4)

- ・自己評価(教職員)⑨ 「生徒同士がつながり、学校生活が心地よく過ごせるよう環境づくりを工夫している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。

(5)

- ・自己評価(教職員)⑩ 「校舎や教室の美化に努めている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が90.4%(前年度実績95.6%)。
- ・学校評価(生徒)⑦ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が88.4%(前年度実績91.2%)。
- ・学校評価(保護者)⑤ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が96.7%(前年度実績95.9%)。
- ・学校評価(保護者)⑥ 「清掃が行き届いている」の肯定的評価が90.6%(前年度実績91.3%)。

(6)

- ・自己評価(教職員)⑪ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に進路相談や懇談を行っている」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑧ 「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が85.0%(前年度実績91.9%)。
- ・学校評価(保護者)⑦ 「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価が95.9%(前年度実績98.0%)。

(7)

- ・自己評価(教職員)⑫ 「生徒ならびに保護者に対して、丁寧に情報を発信している」の肯定的評価が100%(前年度実績100%)。
- ・学校評価(生徒)⑨ 「教職員は、郵送や電話などを通して丁寧に連絡をしている」の肯定的評価が93.2%(前年度実績94.9%)。
- ・学校評価(保護者)⑧ 「学習計画が立てられるよう、郵送や電話での連絡が丁寧におこなわれている」の肯定的評価が97.9%(前年度実績98.0%)。

学校評価(生徒)⑤ 「特別活動(学校行事)は、楽しくいきいきと参加できるものになっている」の肯定的評価が2.7%減少していることについては、宿泊行事である「キャンプ」が日帰りになったことや、「スノーボード研修」が昨年度に引き続き中止となったことが大きい。昨年度中止を決定した時に、「来年こそは」と実施を楽しみにしていた生徒が多かったため尚更である。しかしながら、学校評価(保護者)④「学校行事は、生徒が楽しく参加できるよう考えられている」の肯定的評価は4.5%増加している。宿泊ではないが近隣で日帰りキャンプを実施したことや、例年参加者が多い「芋掘り&みかん狩り」や「アイススケート」等の特別活動を実施したことに対する評価が大きかったのではないかと考えられる。

学校評価(生徒)⑥ 「教職員は、安心して過ごせる学校となるよう取り組んでいる」の肯定的評価が5.2%減少していることについては、コロナの影響が大きいと考えられる。生徒の罹患者が、前年度に比べ大きく増えたこと。また、生徒だけでなく家族や友人の罹患者数も格段に増えたことにより、集団生活への恐怖感が増したように思われる。そして、行動制限等もあり、日常生活も学校生活も思い切り楽しむことができない状況がこの結果に表れていると感じる。

そのことは、学校評価(生徒)⑧「先生たちは、一人ひとりの進路について丁寧に相談にのっている」の肯定的評価が6.9%減少していることともつながっていると感じられる。学校生活さえ安心して過ごせない状況の中で、自分の進路についてどのように考えればよいか途方に暮れる生徒も少なくなかった。

一方で、学校評価(保護者)⑦「懇談や進路相談などが丁寧におこなわれている」の肯定的評価は0.8%だが増加している。学校側の努力や工夫を理解してくれている保護者が増えていると考えられる。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 教職員間の情報交換がしっかりとできるように工夫し、生徒一人ひとりを大切にされた教育に全教職員で取り組む。</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりを大切にされた教育のために、全教職員で各人の事情を尊重し、肯定的態度で接しつつ、その折々の心情を把握することに努める。</p> <p>(2) 職員会議等の機会のみならず、日常においての情報交換を行い、相談できる機会を持つ。</p> <p>(3) 教職員間の情報がしっかりできるような工夫として、教育活動における諸々の課題を教職員が孤立して抱え込むことのないように協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続課題として前年度より「各教職員間の情報伝達」については、引き続き取り組む。</li> <li>・各教職員間においては、適切な個人情報の保護に配慮しつつ、できるだけ開放的な情報環境の構築に努め、各種行事の内容・日程および校務運営全般の企画・調整、教育課程検討、生徒指導指針、人権教育をはじめとする各種研修、進路指導、カウンセリング、広報活動等の校務分掌各部の分担業務について、教職員間での連携・協力を奨励する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）③ 「生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が94.5%（前年度実績96.3%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が89.8%（前年度実績93.4%）。</li> <li>・学校評価（生徒）⑫ 「この学校に入学してよかったと思う」の肯定的評価が93.8%（前年度実績94.2%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が96.6%（前年度実績98.7%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が97.3%（前年度実績98.7%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価が91.8%（前年度実績95.3%）。</li> <li>・学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価が97.3%（前年度実績95.3%）。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）④ 「学校生活上で問題が起こった場合、その都度全員で話し合い、対応している」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑤ 「生徒についての情報を丁寧に交流し、各個人に応じた指導を行っている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> <li>・自己評価（教職員）⑥ 「職員会議やその他の会議等は、誰もが発言できる機会となっている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価（教職員）⑦ 「教職員の資質向上につながるような研修の機会を設けている」の肯定的評価が100%（前年度実績100%）。</li> </ul>	<p>学校評価（生徒）⑩ 「先生たちは、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が1.8%、</p> <p>学校評価（保護者）⑨ 「教員は、生徒とのコミュニケーションを大切にされた指導をおこなっている」の肯定的評価が2.1%、</p> <p>学校評価（生徒）⑪ 「教職員は、生徒が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が3.6%、</p> <p>学校評価（保護者）⑩ 「教職員は、生徒や保護者が相談しやすい関係づくりを心がけている」の肯定的評価が1.4%減少していることについては、コロナ対応で考えなければならない事案が多く、職員会議や打ち合わせの時間が大幅に増え、そのことで生徒と話す時間や楽しく過ごす時間が減少したことが原因だろうと考える。</p> <p>学校評価（保護者）⑪ 「校風・雰囲気が良い」の肯定的評価は3.5%減少していることについては、保護者が来校された時等に生徒の様子等を見て、マスクを外している生徒や大声を出している生徒を見かけ、コロナ禍が始まる前なら看過できたようなことが、罹患者等が増えた今年度の状況下では、看過できないと感じたのではないかと考えられる。このようなことがないよう、生徒への指導を徹底する必要がある。</p> <p>しかしながら、学校評価（保護者）⑫ 「この学校に入学させてよかったと思う」の肯定的評価は2.0%増加していることから、全体的には学校の教育活動について理解を得ていると捉えることができる。</p>
---	--	---	---	--